

山形交響楽団

会津若松公演

Program

シューマン
交響曲 第3番 変ホ長調
「ライン」作品97

チャイコフスキー
歌劇「エフゲニー・オネーギン」作品24より
第3幕 ポロネーズ

ヘンデル
オンブラ・マイ・フ

カッチーニ伝
アヴェ・マリア

BEGIN
涙そうそう

伝承
アメイジング・グレイス ほか

※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更
になる場合がございますので予めご了承ください。

指揮：角田鋼亮

ソプラニスタ：岡本知高

管弦楽：山形交響楽団

角田 & 山響が奏でる名曲「ライン」

©Hikaru Hoshi

2023

8/9

19:00 開演

[水][18:00開場]

〈18:45よりプレ・コンサート・トーク〉

會津風雅堂大ホール

©Kazuhiko Suzuki

チケット 6月10日(土)発売開始

全席
指定

一般 ¥3,000

高校生以下 ¥1,500

※小学生以上の方がご入場いただけます。

チケット取り扱い

チケットぴあ t.pia.jp 《Pコード：244-115》

アビオスペース、栄町オサダ

會津風雅堂

山響チケットサービス（窓口販売のみ）

お問合せ

會津風雅堂

TEL 0242-27-0900（月曜休館）

山響チケットサービス（山響事務局内）

TEL 023-616-6607（土・日・祝日を除く
10:00～17:00）

主催：公益社団法人 日本オーケストラ連盟、公益社団法人 山形交響楽協会

共催：公益財団法人 会津若松文化振興財団

後援：会津若松市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、福島放送、福島中央テレビ

オーケストラ・キャラバンについて

「オーケストラ・キャラバン」は、文化庁のアートキャラバン2（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業）により開催されます。

新型コロナウイルス感染症によって、芸術に触れる機会が遠のいた人々に再び芸術を鑑賞する喜びを体験していただくとともに、文化芸術の質の向上や重要性和魅力の発信を目的として、全国各地で開催されます。繊細な最弱音から迫力ある最強音まで、オーケストラの多彩な楽器が奏でる「生」の音楽の魅力をお楽しみください。

みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

角田 鋼亮 指揮

Kosuke Tsunoda, Conductor



©Hikaru Hoshi

東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2002年、安宅賞受賞。2006年、第3回ドイツ全音楽大学・指揮コンクールで最高位を獲得。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管、ブランデンブルグ

響、上海歌劇院管、札幌、山響、仙台フィル、群響、N響、読響、都響、東響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル、神奈川フィル、名古屋フィル、セントラル愛知響、中部フィル、愛知室内オケ、アンサンブル金沢、京響、大阪フィル、日本センチュリー響、大響、兵庫PAC、広響、九響と共演している。

2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を務め、2018年より常任指揮者に就任。2016-2020年大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拓いている。2016年「第11回名古屋ペンクラブ音楽賞」、2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市立文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。セントラル愛知交響楽団とのCD「ラフマニノフ交響曲第2番&モシュコフスキ組曲「諸国から」><エルガー:エニグマ変奏曲>をオクタヴィア・レコードよりリリースしている。

<http://kosuketsunoda.com>

岡本 知高 ソプラニスタ

Tomotaka Okamoto, Soprano



1976年生まれ。高知県宿毛市出身。岡本の場合は変声後も強靱なドラマティック・ソプラノの音域が自然に維持され続けている世界的にも大変希有な「天性の男性ソプラノ歌手」である。国立音楽大学を卒業後、フランスのプーランク音楽院を首席で修了。心の深淵に温かく響く唯一無二の歌声は「奇跡の歌声」と称され、個性的なキャラクターとコスチュームも併せてクラシック界にとどまらず各方面から

の呼び声も高い。そのレパートリーは幅広く、宗教曲、オペラ、クロスオーバー、日本の唱歌やポップスと多岐にわたり、フジテレビフィギュアスケート中継テーマ曲「ボレロ」ではまさにその真骨頂を聴くことが出来る。株式会社ホリプロ所属。

- 2014年 『ソチオリンピック日本選手団結団式』にて国歌独唱。
- 2016年 アメリカ・ニューヨークのデビット・H・コーク・シアターにてブロードウェイミュージカル『シカゴ』宝塚歌劇OGバージョンに出演。
- 2017年 『読売巨人軍開幕戦』にて国歌独唱。
『第84回日本ダービー』にて国歌独唱。
- 2019年 『世界フィギュアスケート選手権2019』にて《BoléroIV～New Breath～》を生パフォーマンス、国歌独唱。
- 2021年 『東京2020オリンピック閉会式』オリンピック賛歌独唱。
- 2022年 『東京ヤクルトスワローズ開幕戦』にて国歌独唱。
- 2023年 『世界フィギュアスケート選手権2023』にて国歌独唱。

山形交響楽団 Yamagata Symphony Orchestra

1972年、東北初のプロ・オーケストラとして誕生。山形テルサ・酒田・鶴岡での定期演奏会、東京・大阪での「さくらんぼコンサート」、山形県下で毎年3万人以上の青少年に“感動”を届けるスクールコンサートなど、年間150回に及ぶ多彩な演奏活動を展開。

2007年、飯森範親（2004年から常任指揮者・ミュージックアドバイザー）の音楽監督就任を機に、名実共に東北地方のみならず日本の音楽文化を代表するオーケストラとしての地位を確立している。2006年、オーケストラの自主レーベルとしては日本初となるCDレーベル『YSO live』を立ち上げ、2007年から2015年まで8年半にわたる壮大なプロジェクト、「アマデウスへの旅」（モーツァルト交響曲全曲演奏会）を開催、2008年には、アカデミー賞映画「おくりびと」に出演。2017年「モーツァルト交響曲全集」を発売、第55回レコード・アカデミー賞（特別部門企画・制作）を受賞し全国的な話題となる。2020年6月より、常任指揮者阪哲朗とともに「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」をスタート。全集DVD制作とインターネット配信を通じて、山響の新たな魅力を発信している。2022年、創立50周年を迎えた。

常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、ミュージック・パートナー ラデク・パボラーク、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親。オフィシャル・ウェブサイト <https://www.yamakyō.or.jp/>

Facebook
yamagatasymphony

Twitter
@y_symphony

山形交響楽団映像配信のご案内

クラシック専門
ライブストリーミングプラットフォーム
CURTAIN CALL



山形交響楽団公式
YouTubeチャンネル



©Kazuhiko Suzuki